

## サケの耳石温度標識パターンを増やすための標識時間の短縮

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-08-06 キーワード (Ja): サケ; 耳石標識; 標識パターン; 大量標識放流 キーワード (En): 作成者: 宮内, 康行, 江田, 幸玄, 平間, 美信, 岡本, 康孝, 大貫, 努 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010561">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010561</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



### サケの耳石温度標識パターンを増やすための標識時間の短縮

宮内康行・江田幸支・平岡美信・岡本康孝・大貫 努

耳石温度標識はサケの起源を識別するのに有効な方法である。耳石にふ化する前に急激な水温変化 (3-4°C) を与えると標識リングが形成される。従来、標識リングを形成するには最短で 24 時間 (冷却と通常水温管理が 12 時間ずつ) が必要であり、標識可能期間も 2 週間以内であることから、利用可能な標識パターン数は限られていた。そこで、標識パターンを増やすため、標識に必要な時間の短縮を試みた。その結果、12 時間程度 (冷却が 3 時間、通常水温管理が 8 時間以上) で識別可能な標識リングを作ることができた。この方法により、標識可能期間が短い高水温のふ化場でも標識パターンの増加が可能と考えられた。

水産技術, 7 (2), 89-95, 2015